

令和元年度第2回静岡市男女共同参画審議会 会議録

- 1 開催日時 令和元年10月3日(木)午後3時～午後4時30分
- 2 開催場所 静岡市役所静岡庁舎 新館9階特別会議室
- 3 出席者 <出席委員>池田委員、岩瀬委員、岩間委員、川村委員、栗田委員、坂巻委員、島田委員、鈴木委員、錦織委員、藤田委員、松林委員、望月委員
<欠席委員>小幡委員、松尾委員、山内委員
<事務局>久保田参与兼男女参画・多文化共生課長、鎌田係長、近藤主査、中村主事
井藤副館長(市女性会館)

4 傍聴者 1人

5 会議内容

【1 開会】

【2 挨拶】

【3 議事】

- ・静岡市男女共同参画行動計画の進捗状況について

【4 事務連絡】

【5 閉会】

(会議録)

池田委員 P.4～6 進捗状況概要一覧について、重複事業 No は重複している箇所2箇所と同じ番号があるということであるなら、2箇所と同じ数字があると思うが、見つからない数字があるので教えてほしい。また、一覧の中に重複事業と所管別事業があるが、事業により男女参画・多文化共生課独自の目標もあれば、共同しなければ達成が難しい目標もある。例えば、男女平等意識の進展や固定観念にとらわれない男女の対等な関係は、男女参画・多文化共生課が担当すべき業務だが、基本目標8の「生活上様々な困難～」や基本目標5「地域における～」は、男女参画・多文化共生課だけでは実施が難しい。これらは、重複事業に該当がないが、所管課と共同作業がなされていないと見ていいのか。例えば、個別事業進捗状況一覧の中でP.20、No.82「女性消防団員の入団促進」とあるが、女性消防団は男女共同参画の逆をいく組織のような気がしている。女性が音楽に合わせて楽隊による普及活動や初期消火を確認する家庭訪問など、女性ならではの高齢者ケアに女性の力を活用しようというのが見て取れる部分がある。これは、防災に関わりたい女性がたくさんいても、女性消防団に入ってしまったら、女性のジェンダー役割に乗っ取ったものしかできず、閉じ込められてしまう。それより、自主防災組織の役職に女性を増やす方がよいのではないかと。

- 事務局 P.5をご覧ください。基本目標7「男女がともに子育てや介護に～」を定めており、「(1)家事・育児・介護への男性の参画促進」に該当事業数が10個ある。このうち重複している事業はNo.31～38までとなっており、該当するページはP.22となる。No.31～38は基本目標7の前までに一度掲載されているものになるため、2回目は再掲となっている。最初に掲載されている箇所はP.15基本目標3「男性にとっての男女共同参画の推進」にNo.31～38が掲載されており、基本目標7と重複している。
- 池田委員 それは分かるが、質問趣旨は基本目標8を見ると、他の課はやっていないということか。男女参画・多文化共生課だけではできないように思うが。
- 事務局 所管別事業数の項目が、複数の課で取り組んでいるという意味で、重複事業は1つの事業が何回も掲載されているという意味。
- 岩瀬委員 10の基本目標が細分化されており、施策数が多すぎるのではないか。企業において事業計画を作る際も、項目が多くなると未着手で終わったり、形式的に終わったりするものが多くなるため、的を絞った方がよいのではないか。その中でもP.14、No.21「Eラーニングによる教職員のLGBTに関する研修」について、事業実績を見ると「市内全教職員を対象としたEラーニング研修を実施した。」とあるが、Eラーニングであれば何人受講したか分析して分かるのではないか。結果が記載されていない。受講を指示して終わってしまっていないか。また、No.13「保護者に対する啓発」の事業実績は、「学校向け出前講座において、保護者の積極的な参加を促した。」とあるが、具体的に何をやったのか分かりにくい。No.14「市政出前講座の募集についてHP等で周知した。」は実績0件なので、HPを更新しただけなのか。
- 岩間委員 審議会の女性の登用割合が少ないということだが、目標を40%に定めているのであれば、意識的に増やしていくことを重点的にやらなければいけない。また、基本目標3も重点目標の1つだが、P.41の育児休業・介護休業取得について賛成する男性の割合は下がってしまっている。施策を見ると取組はたくさんあるが、もう少し工夫すべきではないか。
- 川村委員 P.10 審議会等女性委員登用率は31.4%となっているが、事前送付資料では1年前のデータ(32.4%)が掲載されており、そこから減少している。P.12、No.6「男女共同参画の視点を持った絵本等の紹介」では、図書館で絵本リストを作成し、図書館に送付・展示とあるが、図書館で目にしたことがない。気付かなかっただけかも知れないが。P.13、No.14「企業・団体を対象とした出前講座の実施」は、実績0件だが、少なくとも令和元年度の件数を最低1件とした方がよい。No.16「地域人材を活用した教育活動の充実」は、この資料ではよいのかも知れないが、学校数・参加人数は多いが、どのような内容で実施されているのか分からない。No.22「国際理解・異文化理解を深める講座の開催」について、英語と中国語で実施したとあるが、外国語講座を実施したのか、外国語を使って何かをやったのか分からない。P.15、No.36「父親向けハンドブックの作成・配布」について、父親向けのリーフレットを2種類発行したとあるが、発行部数が記載されていないので、どの程度の広がりを持っているのか。P.18、No.63「女

性ロールモデルの紹介」について、中部地域で実施したことは非常によいこと。広域連携はあったほうがよい。P. 20、No. 77「NPO・ボランティア活動に関する相談支援および活動に関する情報の収集・提供」について、「ここからネット」は、男女共同参画に関するものが掲載されたとあるが、うまくいった特徴的な例はあるか。P. 47、モニタリング指標の推移について、全体的に減っているが改善しているという理解でよいのか。最後に、今後フォローしていくと思うが、消費税が増税となり生活が苦しくなってくる。これから分析していくときに、消費税が与えている影響を頭に入れて分析してほしい。

栗田委員 進捗状況一覧は、1つずつの枠が小さいので、この程度の情報しか記載できないと思う。作成に苦労されたのではないかという反面、成果指標等を見るとパーセントが悪化しているものや横ばいのものがあり、各事業とどう繋がっているのか紐づけしにくい。複合的なものは仕方がないが、事業を継続していくかを判断するに当たって、例えば、パープルライトアップはどれほど意味があるのかなど測定することができない。1つずつ取り組むことは大切だが、これを全部継続してやっていくのか。何かを削り経費を他の事業に充てるなど、検証ができてよい。それから、気になるところとしては、P. 41 成果指標の指標1『『社会通念・慣習・しきたり』における男女の平等感』について、男性の方が優遇と感じる人の割合が前回より増えている。平等だと感じる社会にしようとしているのに、そこからは遠ざかってしまっている。指標9『『職場』における男女の平等感』は、やや上昇している。男女関係なく性別によって格差がなくなるとよい。どの事業と相関関係があって改善されていくのかが見えてこない。

島田委員 総花的。国が色々指示を出し、その通りにやっていたら、予算も人員も足りなくて難しい。ホームページで掲載しただけで出前講座の実績0件、検証もなく、数値の記載がない。どんな効果があったかが分からないので、何を継続すればよいか分からない。事業をたくさん打ち出しているが、何したいのか分からない。実施したことを並べただけで、総合的に何をやりたいのか、今年何をやるのか、このデータで何を議論させてどんな方針で静岡市が何をメインで打っていくのか、この課は何をやるのか、この委員を集めて何をやるのか、これで検証することにより次に何をやるのか。それぞれ専門の委員が集まって、一緒に考えるなら何を議論し、静岡市は何をやるのか。精査して資料を作らないと時間ももたない。意味が分からないとは言わないが。

坂巻会長 もう少し具体的なレベルでご意見をいただければありがたい。

島田委員 各事業1つ1つについて、成果があったのかなかったのか、客観的なデータを全部つけて欲しい。

望月委員 多くの事業が実施されていることが分かったが、一市民という立場からすると初めて知る事業が多い。企業・労働分野では、P. 38 参考資料の中に市職員の育児休業取得状況とあるが、企業でも分かりやすい指標の一つとして挙げられる。数字ありきではないが、男性の育児休業取得は社会的課題の一つであり、少なからず年々増えているように見えるが、対象者の中

の割合で見るとどうなのか。一般企業で進まない中、市が少なくとも上向いている要因があれば共有していただきたい。

松林委員 事業の実施率 99.5%は、よくやっているという印象がある。逆に、静岡市として何が問題になっているのか課題が見えにくくなっている。これだけやっているということは分かるが、何がどう問題で、どういう事業をやっていけばよいのか見えづらい。P. 16、No. 39「働き方の見直し、休暇取得促進」、No. 40「地域のワーク・ライフ・バランスの推進」について、事業をやっているが、成果として何がどう変わったのか。例えば、夜9時を過ぎても市役所の各課でまだ仕事をしている状況を見ると、事業としてはやったが市役所一つとってみてもまだ働いている課がある。働き方改革やワーク・ライフ・バランスは事業としてやっても、このような現実がある。これからどのような事業をやったらよいのか、見直す必要がある。P. 38「女性職員の登用状況」は 48.4%だが、管理職の比率は 10.4%。これはどこからくるのか。事業のどこに問題があるのか、どういう事業をやったら改善できるのか、そういうことが見えにくくなっている。具体的なものについてこれからどのような事業をやっていったらよいか。審議会の課題でもある。

錦織委員 P. 38「市職員の育児休業取得休業」について、男性の取得人数が低いのは明らかだが、男性が休暇を取得したとしても、生後間もない赤ちゃんの世話をしないとしたら何のための育児休業か分からない。この数字はもちろん大事だが、しっかり育児をして欲しいというのが私の意見。数字では難しいかも知れないが。子どもの性教育について、小学4年生の我が子がお泊りの際に女子だけ集められて生理の話聞く機会があった。そこになぜ男子がいないのか。そこで区別するのではなく、女子はこういう日があって、お腹が痛くなったり、腰が痛くなったり、大変だということを伝える必要がある。将来子どもを産むために大事なことから、女子が生理でお腹が痛かったら大変なんだということを男子にも学んで欲しい。大きな意味でDVの抑止に繋がるのではないか。それから、DVも女性や子どもをはじめ被害者を助けるのが大前提だが、加害者の男性がしつつけと思って叩いているというのを聞いたときには驚いた。男性は間違っているとおらず、ずっと妻や子を叩いている。その方は、カウンセリングに行っただけでDVをしていたことに気付いたというから驚いた。離婚しないなら加害者のケアをしっかりして欲しい。静岡市として実施して欲しい。静岡市から国に働き掛けをしてもよいのではないか。

藤田委員 事業が 180 あるのは素晴らしいことだが、これを市民に使える形にした方がよい。1つの情報を求めて市民の方が来たときに、子育てのことを聞こうと思って窓口に行ってもこのことはできないと言われてしまう。関連付いたものが分かれば、ここに行けばこのアプローチができるとか、大学のカリキュラムマップのよう紐づいたものがあるとよい。この表は、成果や事業を評価するものだと思うが、逆に項目を設けてこれは子育てに関連するものとか、見え方を変えるだけで利用者が使いやすいものになる。180の事業が活用できるのではないか。シフトさせる必要があるので、作業は

大変かも知れないが、市民の方がより使いやすくなるのではないか。P. 27、No. 147「母子保健指導の実施」について、事業実績が母子健康手帳交付時の相談4,593件となっているが、ここに紐づいているのが「DVを生み出さない社会づくりの推進」なので、DVの相談なのかとってしまう。DVを生み出さない社会づくりの推進として母子健康指導の実施なのであれば、多分色々な相談が記載されていると思うが、本当に成果指標として使えるのか、詳細がないと事業評価が難しい。それから、錦織委員が指摘するように、若年層への教育は大切。加害者へのアプローチもそうだが、加害者を生み出さない、被害者を生み出さないためには、若年層への教育。性教育も同じ。その中で若年層を対象としたDV防止対策やリプロダクティブヘルスなど、根本を言えばパートナーシップや「人が生きるとは」になる。1つ1つをバラバラにやるのか、系統立ったものとしてやるのか。性教育、命を生み出すリプロダクティブヘルスの視点+パートナーシップとしてやっていくと、系統だって色々な方向で視点を増やせるのではないか。

鈴木委員 これだけの事業を実施していることは素晴らしいが、岩瀬委員が指摘するように何を目指していくのか。何年までにこの数値になったら次の段階に進んでいくというように。ある程度精査は必要。事業は、開始してしまったことを引っ込めるのは一番難しい。継続の意味はあるが、どこかで形骸化してしまうのであれば、どこかの数値に達成したら次の段階に進む必要がある。そういう意味では、P. 18、No. 66「ダイバーシティ in 静岡」に私も参加しており、機会としてはありがたいが、実際の声を聞くと何に向かって毎回集められているか分からないという意見が多い。参加者の子どもの保育園のお迎えが5時なのに5時で終わるのはおかしいのではないか。根本が間違っていないか。交流の場なのに交流できずに慌てて帰ってしまうのは、違うのではないか。市役所が夜9時まで電気が点いているという話があったが、友人の職員も夜遅くまでやっていて、No. 89「企業のワーク・ライフ・バランスの推進」の企業を5社表彰するにあたって、エントリー企業が集まらないので出てくれないかと言って集客している。それは違うのではないか。無理に出すのではなく、企業が育つ段階をどのように歩んでいくのか。今この企業にとってこの事業を受けたら、次にこの事業に参画してください、そのステップを踏んでいけば企業として人事として男女共同参画や女性活躍が進んでいく。段階が表示されていると市役所の事業としても何を目指していくのか分かるし、企業も成長のステップが違うので、段階が分かりやすいステップを表示していただきたい。

坂巻会長 個々の施策の政策評価をきちんとできているのかどうかが一番の疑問。実施しているか、いないかだけでは仕方がない。測りにくいものではあるが、鈴木委員が指摘するように、声を集めようと思えば集められる事業もあるので意見を伺ってみてはどうか。例えば、P. 17、No. 52～56の事業は企業を対象としたものが含まれているので、アンケートを取るだけでも生の声を聞けるのではないか。また表記についてであるが、「しょうがい」は、No. 133では「障がい」、No. 157「障害」と、ひらがなを使っている場

合と漢字を使っている場合がある。市の方針を踏まえて統一した方がよいであろう。No. 136～139は「母子家庭等」とあるが、父子家庭も相当程度いるので、「母子家庭・父子家庭」とすべきではないか。「寡婦」という表記もあるが、妻を亡くした「夫」に支援が必要な場合もある。施策の中で平等に取扱うよう心掛ける必要があるし、施策の表記の段階から対等・平等な扱いがとられることがわかるよう記載いただきたい。中間見直しのときにLGBTに関わったものとして、LGBTに関する施策が取り入れられたことを嬉しく思う。ただ、パンフレットを作って、希望の学校に配布するということが、どう活用されるのか、どう活用してほしいのか、役に立っているのかまでチェックしていかないと定着していかない。まだ広報の段階ということであろうが、学校教育の段階で困る子どもが多いと思われるので、より積極的な施策を来年度以降お願いしたい。No. 149「男女相互の理解と健全な人間関係の確立に関する教育」について、DVの文脈であることも理由かとも推察されるが、「異性と人間関係を築くに当たって」という記述がある。異性との恋愛関係を前提とした教育が性的少数者の子どもたちを傷つけ、またかれらの悩みを増長することにもなるので、「異性」という文言の使い方に気を付ける必要があるであろう。恋愛感情を持った方との人間関係といったような言い方もできるかもしれない。こういう場面においても文言の用法に配慮してほしい。

事務局

欠席の小幡委員から質問と意見を頂いている。

「小幡委員：事業の進捗については、各課にて進められているところですが、いずれも実施状況で事業効果や質的变化が目標ごとに読み取れにくく思います。基本目標は多岐にわたるため全ては求めませんが、特定の基本目標で何がどう変ってきているのか質的变化をうかがいたい。目標値の成果指標達成に向け、基本目標ごと今後取組をどのように進めていくのか伺いたい。」

各委員から意見を頂いたように、この表から多岐にわたるという指摘もあり、事業レベル・施策レベルの成果が見えにくいということもあるので、進捗状況は来年度に向けて成果が分かるよう変更を加えていきたい。もう1つ意見がある。

「小幡委員：静岡市ではSDGsを進めています。SDGsは『ジェンダー平等の実現』、『人や国の不平等をなくそう』、『働き甲斐も経済成長に』など、男女共同参画行動計画に関係するものも含まれています。これらとの関係の中で男女共同参画計画も進められていることと思いますが、相互に連携し相乗効果により計画が推進されることを期待しています。」

表記の問題や取組についてご指摘を頂いたが、当課が全庁的な施策をまとめているため、意識的に自分のところではない事業もしっかり見ていきたい。

坂巻会長

表記の仕方や見せ方を変えるという発言だっように思われるが、今回の委員の方々から提起された問題は、評価、つまり施策の効果がよく分からないということであったかと思う。実際のところ、各施策を実施した後にアンケートを取るなど、成果は測定されているのか。事業によって、効果

を測っているものもあればないものもあるということか。

事務局 それぞれ測っているものもあればないものもある。書き方を統一できていないということもある。各部署にまたがっているのでどういった書き方で成果や取組実績を示すべきか、各課から成果を明示できるようにしていきたい。

島田委員 量から質という話ではないか。

事務局 フォーマットの話だけではない。

坂巻会長 施策の効果の測り方もこれまでの方法で本当によいのか検討してもらいたい。エントリー企業が集まらなくて企業にお願いしているということもあるとの指摘があったが、それで施策の効果がないとは必ずしもいえない。エントリーして欲しいと言われて企業が動くこともあろう。施策の効果をより適切に測れる指標を考え、評価を行っていく必要がある。ご検討いただきたい。

島田委員 選択と集中をせず、事業が増えていくと大変なことになる。

以上